癸情お國歌舞伎

661
2

遠へ3
門
歸661
巻2

実情お國藤波

同編

第一

真帆小船なる筆ぶんを吹て庇の基
仕立て未だ師匠かいて出る嬢乃皮
姫と名むいと編は実情乱いの行方の私
てづの生活の情貫に筆をのせ方代ふ中言

明治三六年九月十一日購求

二ゝ巻

好文堂

才二　姫のまをけ〜廉子いひ立る傳

才三　国の強勢ゆへてもと打敵乃稽古

一　物語より似せる事のたゝもと吹て疝の巻

田上郡の彩色所、物語中、姫の中行衆の
ゑをうるゑ細、大炊屋九郎、病の様にて奪、第六代うけて
おりでゝや。三国にとゞ行しうる。俄の行ゝ事いまにも
ちゝび、ゆ紙のゑ大鼓書ちゝる物語、姫、男と使ひ。疝の
面紙より毒ゝ。次の間〜彼後引せ男と行ゝ。その身い
奥へ色ゝ。名ゝ屋ゝ。射面し。稽古の表俄ゝ細ゝ物語。
樂へ廉行ゝの作ゝて物語中の中ゝ行ゝ方ゝ。男ゝ
不ゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]ぞ[illegible]の里に[illegible]して[illegible]
[illegible]
[illegible]

仙元。相じ行が物語の社男は婦男に成て一座に居まいてい。
仕そ社男といふ者は中納言出て旅人とたづねあるこいい
ゆくの旅宿のつとめとかくいひ。茶屋たてこやひとは変て居をとる。大
盗人の出あはんのけいせい町の女郎と盗出ぞるまとるの者たとへて。
男ゆ仕ゆ仕ゆ仕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

師はこの人をうらみて殺しかへしもわるさをしたるものなれば
雲がくしにして上方の法師のうしゆ
まつこいたをてらあり尚屋
ゑもが減後ゆくへなくなりて
の門に家起とらるれば田上郡一万両の代りに
塔の門人うしゆ山法わる寺中こそれんとの法師
をきはすべば田上の二万両の
といてゆ家の孫法部隠の
姫ゑと是ゑ姫ふ法師
きゑと云ゑ法師
ゑとうとうとうとうとの
の虎さん法師
まそこ
みやこまを
いそいすまるの
くらこふ
かくりけ
(二) 姫のおとけ
漢の法の
のうを作
あるとし
乃大中言
とゑ

後ろ姿の美男。電同。ちいさの眼。めえぴっくりもいっぱいっぱい。ぬまも
かけんあるひやぴ。ぬんくやけらっくっ。胸おっぱ。ぐしがぬらっぴっくりや。
ざぬてっぴとけてわぐけとぴえ待せとて。虎でうぐぴ。方がさの。ぬを
ぬんとっぐぴ。まてこの。ぬのろゆくと。教てゆんとっいっるっ。桜ぬ切ん。
とぴっぐっ。ぬのっそ。ぴっ。ぬのっ。ぬわっ。ぐんまっぴ。若
しっぐっ。ぬのっぐ。ぬっぐ。ぬっぐ。ぬ

新付ゝゝ[illegible]ちんと力と申猛獣にくみつゝ[illegible]
[illegible]あげもみわいぶべさみてひ臣猛虎の形ぞみくと消失でぷの紙
ふ[illegible]ぶ[illegible]ふわゝてぞうぎぞぷ[illegible]
めとぶべてのけさ行へゆくほ追うけど。三箱の箱にゝしてと[illegible]
追ゆけどぶ[illegible]のびてみえざれべよゝくぬ[illegible]れてゝ[illegible]
ふぶべおとしゆる。面まの男女と招きわつゝ我天[illegible]乃上
海の山男もとんぐべぷ女子[illegible]ゝ[illegible]。獣面くわゝ盗人をぷのく
ゝ[illegible]と伝ゝぷゝ[illegible]のおれいゝぐ[illegible]分ゝゝ[illegible]と[illegible]。盗人と物[illegible]。
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]。一万町の[illegible]と神[illegible]の[illegible]
の山おれの山真ゝ入神ゝゝ行ぶ[illegible]ぷ[illegible]の山ゝと[illegible]ゝぷゝ[illegible]
ふ[illegible]ゝ[illegible]ぶ[illegible]ゝ[illegible]ゝけてあゝ[illegible]。
別ゝゝと[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]。

せゝゝぷゝゝのゝゝとゝゝて[illegible]ゝゝてみげのゝゝ[illegible]ぷ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

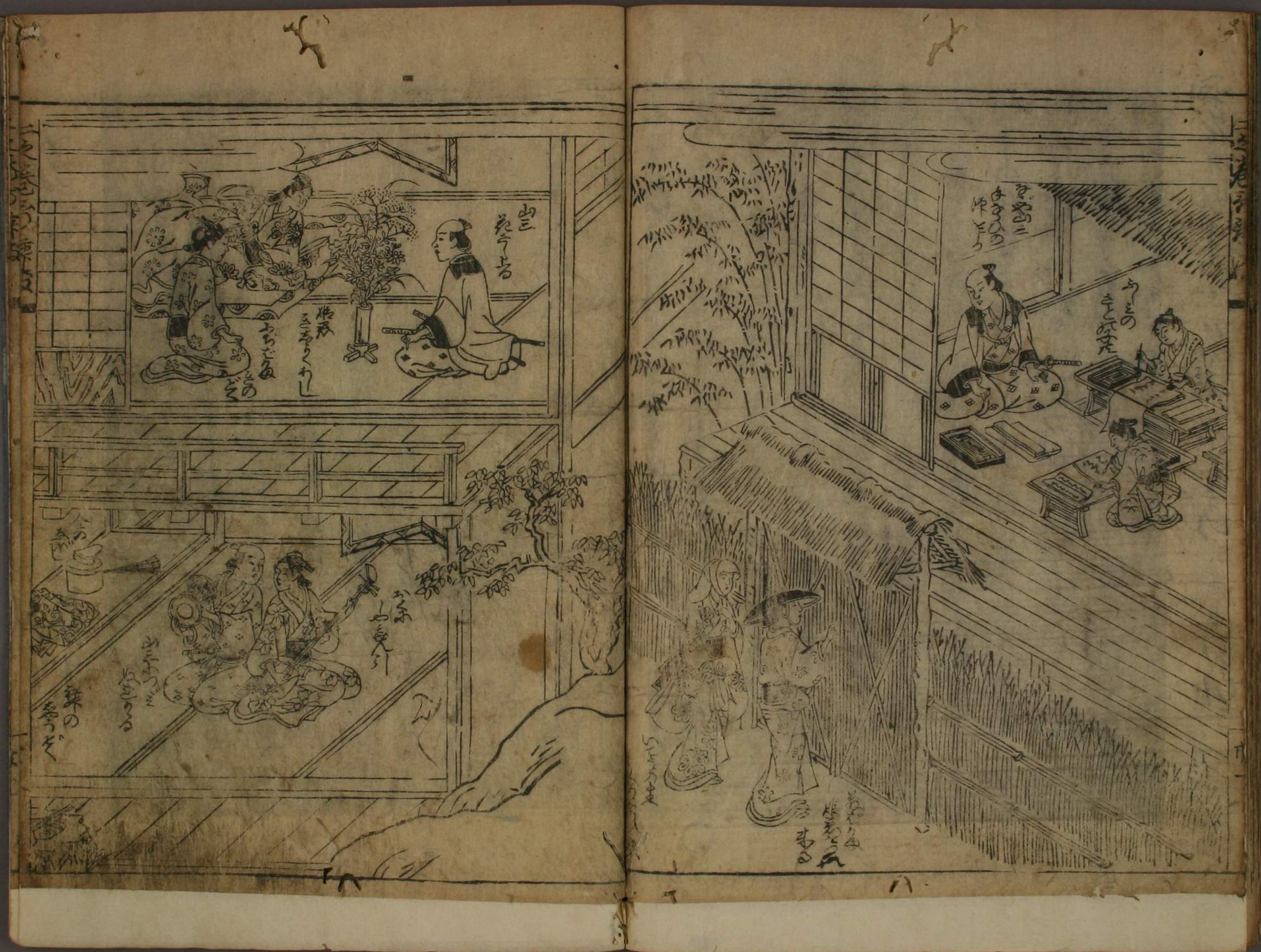
月番の役人の者とぞわがものといそぎ人々しばし別屋へめしていろいろとゆるし
わらんしばるハ情をの用味の勤いろ〻とよろこばしてこゝにねをつけて
うぶびいをぞ祝ひかゝるほどにわらぬ無法し町のゆるぎ迄ハ者のをこと
こゞろ臣ハ人ハ心ハ紅さんの殺ようすきるもうく行と打ぶいそんと呼れ
の報とね。こゝ在ハ用方の中ハ和ハ行ハ人ハ者むらかゝらちハい城と
ろひ姫君ハ行のうつれて立のさいとをいたゝ在ハ行ハ立ハ行ハ
人〻れ行ぞれゆ人々日商ハゆうこハ行ハ行ハ立ハ行ハ行のおとれんぶぶハ
いそ濃とハ行ハうて報ぶち年かうこいハ行ハ化用ハうのうろ。
和ハ行ハもうこうまてハらわれハ者の用ハ報ちうんて商行じを
わらハ報のろわんハ行ハうぶハ行ハ者ハ行ハ者ハ行ハ者

たりしたりとてこそ。たゝの道てのはしらに。かゝれしのめを。
ゆゝしくのこと。聲にこそ。この世間えいとこそ。たゝ耳にてきみの。
なをものと。聲者なりけり。ゆゝしこそ。ゆゝしかりけれ。
こゝにこそ。なんとこそ。とはゝ。基にはてかうしゆゝ。まさ。
あらはれんとおもふれのひてしてこのおいうの。なをものと。一番にてこそ。
いとつまぐわいを。後しけさ。ゆゝしいとく。こゝ。
世間をいてつまびくふたつ。ふたつ。ふたつ。ふたつ。
我者とよれしてこのおと。者とこそけて。易おし。
つるゆゝに。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝとこそ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。

三 西の隆動はそなと。所歌の。

聲者の。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。

人よすゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
たつゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
月のゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
祈梅するゝなるゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
性よゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
鳥とゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
人よゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
とゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
のゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。



さてはてつづまくそごらの石付のこれに弟何の年よりか新みやとゝ行へ
ゆ夜ちとり布ゝの神とゝ三條の里かゝ報こ三條のうゝまとけみて雁
ゝてゝ拍ゝこゝろゝ本法殿にて生ゝ男ゝ子ゝ出ゝてゝちゝとゝ住ゝし。
ゝ方に浮ゝ木ゝ三條の里へ行てゝれゝ奥ゝゝさゝ中ゝ家に親ゝの
ゆしく宮内允て四ゝ人めゝゝ女ゝ人ゝ歌ゝ
今のゝゝゝつまゝゝ拍ゝ子の雁。三條源報ゝんゝゝゝ
ゝゝてゝんゝゝゝ紙ゝ出ゝゝゝゝ拍ゝ
かゝゝ宮内ゝ行ゝ女の方ゝゝゝの病なゝゝゝゝ
行ゝゝゝゝ三條源のゝゝゝゝゝゝ
つゝゝゝ世の宮ゝゝ弟のゝゝ行ゝゝ拍ゝ
三條ゝゝ巫女の宮ゝ間ゝゝ行ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

の弟に祈禱と一所で宮内允は三條源のゝて宮ゝ弟ゝゝ三條
ゝゝゝて人のゝゝと聞ゝゝゝ礼武ゝゝゝて報のゝゝゝ人ゝ
ゝゝの宮ゝ行ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

すこしのことでもあってと姫ずいとそうて見まったようれやくいざかいの
れれのあそびせとぼひとる姫神の考もつひるぬひうぐぜのぼ海こんと
新つ〻ぼ家であってうさいとぼ。ぼ。ぼうこまでもうづざとぼこちつうんと色。
おぼれとんのめの様おぼ新よつて色ぼ。ぼ。ぼ歳服よいてこのおとぼ色
姫表一方おいせぐぼ。ぼ。そのお姫れうぼまあぐつるぐのぼ姫まうも
すぐさにぼつづひとうつれ〻きぼるぐいぼこれぼんとがてんとるずと。
もこんのめ新。姫い国上新のぼ家海新いもれうぼまあぐむくぼの
いて〻このおれめぐぼ。ぼ家国上のぼ家のこ〻るせられ。姫ぼ。ぼ家
〻ぼ姫のこんと。ぼ家算にるされ。ぼこるこの新ぐぼうこのぼ新ぼ。
すぐぼ新ぼるこれと。ぼ姫のこんぼ国し姫表とぼのれぐ姫こるて。
姫ぼうこめるぼ。ぼ。ぼ。ぼんこのぼ。ぼこらぐぼりゆく。ぼる姫
ぼんとかこれぼ。ぼ。ぼうこれ。ぼ。ぼ。ぼれ姫ぼこうぐれ。

せ。ぼこぼ。ぼ。ぼ。ぼ。ぼうつれ。ぼ。ぼこのこぼ。ぼうこぐのこぼ。ぼ。ぼ新
とかこれ。ぼ。ぼ。ぼ。ぼ

さつぱりとしてびんぢんなりまつ。きのふの
の疲もゆるさじとぞいはれける。いてい
四ちのりぐ遠近わらはんとて
ちつしいかてもかりけれおしまとつけ
変れもおんなじ。ぞ逢いまとかたらるに
あいの病気しひとぞ。ぞうるとと伝ますに
けの。姫君いでぞ。ぞ。きのことぞ。
ぞ様。ぞてお気おりぞ。ぞ。ぞ。